

手直し専門店 製造挑戦へ

箔きりらり 金沢ジーンズ



ビンテージのジーンズを手直しする木戸口智一さん＝金沢市大額で

ジーンズ手直し専門店「M.A.G.I.C.」(金沢市大額三)が今春からオリジナルのジーンズ作り挑戦する。ブランド名は「商標登録のため明かせない」が、「和」にこだわったと代表の木戸口智一さん(四七)。ジーンズを特徴付ける後ろポケットのステッチも秘密だが「両ポケットに金箔を張る」とだけ明かしてくれた。生地はビンテージ風。どんな「金沢ジーンズ」になるのか。(稲垣達成)

地域
未来派

二十五年間、ジーンズを直し続け「自分の手でオリジナルを作りたい」という意欲は前々からあった。昨年二月、米ラスベガスでの展示会の経済産業省のブースにオリジナルと同じく両ポケットに金箔を張ったジーンズを出品した。使ったのは「SPARK TRU E」製のジーンズ。岡山県倉敷市にあるメーカーだ。
信頼できるメーカーと出合い、オリジナルブランド作りに踏み切る決断をした。半世紀前に使っていた織機を修理してもらい、ビンテージ感のある生地を作ってもらう。粗っぽい表面や絶妙な色落ちが、イメージにぴったり合ったという。
高校卒業後、大蔵省(現財務省)に入ったが「仕事になじめず」一年で辞職。金沢市内でバーと古着店を開いた。一九九〇年代、日本にジーンズブームが起

ビンテージ風「愛着わく品に」

き、ビンテージものが売れ、経営は軌道に乗った。ローンで五十万円も支払う客もいたころだった。米国へ仕入れに出かけた際、南米出身の労働者が時給二、三ドルで衣類の手直しをしているのを見た。「高額で転売される古着は低賃金で働く労働者が直したものと気づかされた」。そんなとき、妻の景子さん(四三)が提案した。「売りっぱなしではなく、手直しするサービスでもついたら」
ミシンの使い方を景子さんに教わり、近所のスーパリーの衣類の手直しコーナーで、従業員から「変な人」と思われながらも何時間も観察した。修復に出して、戻ってきたジーンズを眺め続けたこともある。
地道に培った技術力と、一カ所二百円からという良心的な料金で支持され、月に二十〜四十本の依頼が全国からある。どんな要望にも応えるため、常時、二百色以上の糸を用意する。
「仕上がったものをより愛着のわくものに変える」がモットー。
「思いが詰まっているから『本当に直るんだ』と喜ばれる。直してよかったと思う瞬間です」
昨年十一月、景子さんがジーンズの魅力を発信する「ジーンズソムリエ」の資格を取得した。「文句一つ言わずついてきてくれた妻と、年商一億円を目指して頑張りたい」

路上

京都、

三十一日午

京都市伏見区

シヨンの路上

人が男に刺さ

によると、大

飼将希さん(三

市朝日の男性

を切られ重傷

られる男は徒

大阪府警四條

身柄の引き渡

都府警が男性

未遂容疑で逮

伏見署によ

場近くに住む

者(五〇)。「刃

た」と容疑を

今年も一年、
ご愛顧の程お願い致します。

全沢給食センター